

<第20回大会記念特別講演会 開催のお知らせ>

日本マングローブ学会では第20回大会を記念して、下記のとおり特別講演会を開催します。聴講無料ですので、多くの方々のご参加をお待ちしています。

記

日時： 平成26年11月22日(土) 午後2時～午後4時

場所： 東京農業大学 世田谷キャンパス 1号館242教室

演題：マレーシア・ボルネオ島のマングローブ林の現状と再生への取り組み

講演者：ジョセフ・タンガ博士(サバ州森林局)

<ボルネオ島の魅力と講演者紹介(馬場繁幸 ISME 事務局長)>

マレーシアは大きく二つ、すなわち首都クアラルンプールのある半島マレーシアと、サバ州とサラワク州のあるボルネオ島に分けられます。マレーシアのマングローブ林の面積は71.0万haで、その約半分の34.1万ha(東京都の面積は21.9万haなので、約1.6倍)のマングローブ林がサバ州にあります。このマングローブ林を含む、サバ州の森林全体を管理しているのがサバ州森林局で、2,000人以上の職員が勤務し、27の支局と森林研究所、林業研修所、オランウータンリハビリテーションセンター、熱帯雨林ディスプレイセンター等で調査・研究や研修を実施しています。

また、サバ州にはボルネオ島の最高峰、キナバル山(標高4,095.2m)があり、キナバル自然公園は、世界自然遺産に登録されています。

ボルネオ島は、オランウータンや世界一大きな花であるラフレシアをはじめ、マングローブ林にはボルネオ島の固有種であるテングザルも生息しているなど、生物の多様性に極めて富んだところです。

今回、サバ森林局のマングローブに関するプロジェクトの責任者であるジョセフ・タンガ(Joseph Tangah)博士をお招きして、ボルネオの動植物、特にマングローブ林の現状や再生の取り組みなどについてご講演いただくことにしました。



ボルネオ島の固有種であるテングザル

以上